

デジタル社会における学び方と学びの場 —オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

開催地：大阪

グループ： 2班

2022.9.18

実技科目のオンライン活用法

オンラインでしか出来ないこと

- 画面録画などによる授業の**効率化**
- 学年全員が同一の授業を受けることによる**均一化**
- チャット利用における授業の**活性化**
- 登校時間がなくなることによる時間の**有効利用**
- 遠く離れた場所でのディスカッション
- 遠くの専門家などから話を聞くことができる

問題点

実技ができないことにより、十分な学びを得ることができない

例)

- | | |
|-----|-----------------------------|
| 科学 | 先生の行う実験のみを見るので動画を視聴するのと大差ない |
| 家庭科 | 実技に費用がかかるものが多く学校側が負担できない |
| 美術 | 使用する備品を持っていないため作品が製作できない |
| 体育 | スペース、人数の不足より実際の授業とかけ離れた物になる |
| 音楽 | マンションで大きな音が出せない、楽器が家がない |

オンラインで実技を行うためにできること

- 科学 1. 実験の過程などをクイズ形式にしてみる
2. アプリなどを使って色々な化学反応を見たり、実際に組み合わせると危ない物質を組み合わせることができたりする
- 美術 アイビスペイントなどのアプリを使って絵を描いたりしてみる
- 美術 シミュレーションソフトを利用しオンライン上で作品を仕上げる
- 音楽 デバイス内のピアノ等の楽器を用いて授業を受ける
- 家庭科 キットを学校側で購入&配布し、手縫いで作品をつくる。(説明はオンラインで)
- 体育 家でできるストレッチ等の動画を使って実行する

これからのオンライン活用法について

- 塾などで授業を聞いて問題を解くだけでなく、pcやパッドのアプリを使って実験をし、学びの質をより良いものにする。
 - ⇒ イメージが沸きやすい。楽しんで、興味を持ちながら学習ができる
- 実技教科の授業もアプリを使用して、実際にモノを触らずに演奏したり、デジタル画などを書いたりなどデジタルを活用する。
- オンラインでの演奏会、発表会を実施する
 - ⇒ 他者との共有の場を設ける（学習が深まる）遠くにいる人にも共有することができる